

東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation



生活科学研究所 女性未来研究所 地域連携推進センター
ヒューマンライフ支援センター 森のサロン

地域と学生、大学の連携・協働と「ひとの生 (Life)」 ヒューマンライフ支援機構にご期待ください。

東京家政大学は1881(明治14)年に創設以来、144年目を迎えました。

この間、本学の教育・研究の成果を「ひとの生 (Life) を支える学」として

広く社会に発信し、地域の課題解決に向けた取組を

行政、企業、NPO等と協働してすすめてまいりました。

こうした本学の取組を基盤に地域と学生、

大学を結ぶワンストップセンターとして、

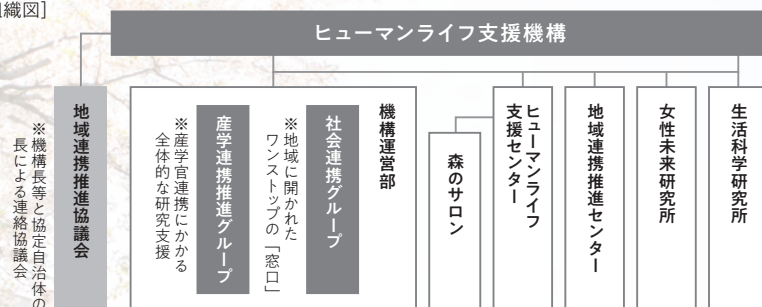
「ヒューマンライフ支援機構」を2020年4月に開設し、

着実に活動を積み上げてまいりました。

今後は皆さまのご理解とご支援のもと、

社会連携・産学官連携の取組を一層活発化してまいります。

[組織図]



機構長

飯塚 堯介

MESHITSUKA Gyosuke

元東京家政大学家政学部服飾美術学科教授、
東京大学名誉教授、日本学術会議20期・21期
会員、22期・23期連携会員。
専門/生物材料化学、バイオマス化学

社会連携グループ

大学と連携したいが、どこに連絡をすればよいかわからないとよく聞きます。社会連携グループは行政、企業、NPOなど本学との連携を希望される方々が気軽に相談できる「窓口」となります。



社会連携グループ長 内野 美恵

本学の専門である「ひとの生(Life)を支える学」は、社会の多種多様な分野と連携することが可能です。本学学生の勤勉で若くしなやかな発想力は、これまでの産学官連携事業において、多くの成果を上げています。

UCHINO Mie 本学ヒューマンライフ支援センター教授・専門員、東京都食育推進協議会委員、日本パラリンピック委員会医科学情報サポートスタッフ、博士(学術)、管理栄養士
→ E-mail: syakairenkei@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携推進グループ

本学は食べること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進グループは大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装(社会の役に立つ)を目指し、産学官の連携による共同研究・受託研究等を活発化します。



産学連携推進グループ長 佐藤 吉朗

本学の「強み」を最大限発揮しつつ、行政、企業、NPO等をパートナーに連携・協働をすすめてまいります。これらの取組の成果を本学の「研究力」の強化につなげ、生活研究の家政大ブランドを確立できるよう努めます。

SATO Yoshio 本学ヒューマンライフ支援機構副機構長、本学栄養学部管理栄養学科教授、生活科学研究所所長。2010年に食品企業から本学に。食品の安全から「おいしさ」まで「食」にかかわる幅広い事象が研究テーマ。

→ E-mail: satouy@tokyo-kasei.ac.jp



産学連携推進グループ産学連携コーディネーター 藤本 浩

産学連携推進グループでは、企業との共同研究、受託研究等を通じて家政大―産業界の連携を推進しています。私は食品企業における研究者として、また、国立研究機関での産学連携・知財管理の担当者としても長年の経験がありますので、お気軽にご相談ください。

FUJIMOTO Hiroshi 本学生活科学研究所教授・専任研究員、博士(理学)、食品技術士センター会員、一級知的財産管理技能士(特許専門業務)

→ E-mail: sangaku-D@tokyo-kasei.ac.jp

産学連携の仕組み

[学術指導]

- ・学術指導とは、企業等からの委託を受け、本学教員が教育・研究上の専門的知識に基づき指導・助言、情報提供等を行い、その課題解決を支援する仕組みです。研究を具体化する前段階の包括的な支援としても活用できます。
- ・学術指導を受けたい本学教員（研究者）がいる場合には事前に指導内容等についてご相談ください。どの教員の指導を受けたいかわからない場合は、本機構産学連携推進グループにご相談ください。学術指導にあっては、1時間につき10,000円を基準に学術指導料のご負担をお願いいたします。

[共同研究・受託研究]

- ・共同研究は、民間機関等から研究経費又は研究員を受け入れて、本学の教員が民間機関等の研究員（共同研究員）と共通の課題について共同して研究を行います。受託研究は、民間機関等から委託を受けて、本学の教員が委託機関等からの委託研究費によって研究を行います。
- ・共同研究・受託研究の申し込みは、担当する教員を通じて行っていただきますので、まずは直接希望する担当教員、または本機構産学連携推進グループにご相談ください。
- ・共同研究・受託研究の受入れが決定しましたら、本学と民間機関等で契約（共同研究契約、受託研究契約）を締結し、研究がスタートします。

[共同研究講座・共同研究部門]

- ・共同研究講座・共同研究部門とは、企業等から出資を受け、本学からは研究者と研究施設・設備を提供することで、共通の課題について長期的・継続的に共同研究を行う組織を設置するものです。
- ・共同研究講座とは学部・研究科に設置する組織で、共同研究部門とは研究所等に設置する組織です。
- ・設置期間は2年から5年を標準としています。共同研究と同様、企業等から共同研究員を受け入れることも可能です。
- ・本学の研究者（複数可）との安定的な共同研究拠点の制度としてご活用ください。

共同研究講座 エスビー食品株式会社との連携

生活科学研究所香辛料機能研究部門

[概要] 設置期間：令和4年4月1日～令和8年3月31日
研究体制：研究代表 佐藤吉朗教授、研究副代表 佐川岳人（エスビー食品株式会社）

本研究部門では、食における「香り」の役割を科学的に追及しています。具体的には、健康でいきいきとした毎日を送るためには、塩分コントロールが大切ですが、日本人の食塩摂取量の理想と現実には大きな差があります。そこで、スパイスやハーブの香りや辛みを料理にうまく活用することで、塩分を控えながらも、おいしく食べられることがわかってきました。また、「香り」の広報活動の一環として、2024年10月に本学にて開催したレクチャーフォーラムにおいて「スパイス&ハーブを使いこなそう!」をテーマにエスビー食品株式会社スパイス&ハーブマスターの遠藤由美氏にご講演いただきました。



生活科学研究所 所長
栄養学部 教授
佐藤 吉朗
SATO Yoshio

食品は人が健康を維持するのに必要ですが、食品の持つ味、色、香り、食感など、おいしいと五感で感じる味嗅覚応答機能を活用することで、食生活が豊かになります。本研究部門では「香り」の役割を科学的に追及しています。

本学は食べること、着ること、健康であることなど、人々の生活にかかわる多様な研究を行っています。産学連携推進グループは大学のシーズと行政や企業等のニーズをマッチングし、社会実装を目指し、産学官の連携による共同・受託研究を活性化します。



家政大の研究シーズ

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/seeds.html

研究シーズ(Seeds)とは、大学と企業、行政、地域等との産学連携、社会連携の「実」となり「芽」となる「種(たね)」のことです。本学では子どもから高齢者まで、人々の生活にかかわる多様でユニークな研究が行われています。それぞれの教員がどのような研究に取り組んでいるのか、その研究活動の一端を、「子どもと学び」、「食と栄養」、「健康とからだ」、「環境と暮らし」、「こころと表現」をガイドに紹介しています。興味を持たれたシーズがありましたら、産学連携推進グループ(orcc@tokyo-kasei.ac.jp)までお問合せください。



発明研究の紹介

www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/academia_cooperation/index.html

本学教員による発明と研究概要について紹介しています。発明した技術等を使って新製品を開発してみたい、本学と更なる研究開発をすすめたいとお考えの企業様がありましたら、産学連携推進グループ(orcc@tokyo-kasei.ac.jp)宛ご連絡ください。

研究課題	動画	研究者名
天然ナノ材料を用いた布への消臭性等の機能付与		家政学部教授 濱田仁美
スタッフ不足を解消する質の高いリハビリテーションシステムの開発		健康科学部准教授 磯直樹
減塩パンの製造方法の開発について		栄養学部教授 鍋谷浩志
ウイルス感染症の高感度・迅速検出		家政学部教授 池田壽文

産学連携支援ネットワーク会議に参加

産学連携には学外の多様なチャネルの協力を得ることも重要となります。本学も公益財団法人埼玉県産業振興公社が展開する産学連携支援の仕組みを活用させていただき、積極的な取組をすすめています。

2025年1月に開催された「彩の国ビジネスアリーナ2025 産学連携フェア」に本学のブースを出展し、「質の高いリハビリテーション支援システム」(健康科学部 磯准教授)のデモ・体験と「ウイルス感染症の高感度・迅速検出」(家政学部 池田教授)、「減塩パンの製造法」(栄養学部 鍋谷教授)、「セルロースナノクリス



タルを用いた布への消臭機能の付与」(家政学部 濱田教授)、産学連携事例(ヒューマンライフ支援センター)のパネル展示を行いました。



各研究所・センターの紹介

本学の学生たちを緩やかにつなぐネットワーク

生活科学研究所

地域に開かれた生活科学の教育・研究の場

昭和23年の設立以来、幅広い分野にわたる学際的な生活科学研究を推進し、行政や企業との共同研究等産学連携をすすめています。全国の高校生による研究コンクールや各種講演会、食育活動等広く本学の教育・研究の成果を発信しています。

→ TEL: 03-3961-2502
E-mail: rids@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/rids/index.html



幼児と親子向け環境学習講座（北区環境大学）

女性未来研究所

女性100年、過去から未来へ

建学の精神である「自主自律」の道を歩み、生活信条である「愛情・勤勉・聡明」のもと、未来を創造する女性を支援するための活動と調査研究を行っています。SDGsの目標を共有し、コミュニティの課題解決に参画する「女性」を探究しています。

→ TEL: 03-3961-5305
E-mail: josei-mirai@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/research/woman/index.html



「人生100年時代女性の未来と希望」講演会

地域連携推進センター（狭山）

地域課題の解決に向けた地域と大学を結ぶ連携拠点

地域の人々の学び直し支援、学生の成長を促す学習機会を開発・実施、地域課題解決のための調査研究等、本学の教育・研究の成果をもって、地域課題解決に向け、多様な大学、地域、地元企業との連携・協働により、地域活性化の推進活動に取り組んでいます。

→ TEL: 04-2955-6959
E-mail: chiiki@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/commulic/top.html



入間市共催「保育者研修会」「自分の保育を振り返る」

地域連携推進センター（板橋）

人生100歳時代にむけた充実した学びと地域連携の拠点

一般向け公開講座に新たに『女性のための資格講座』を開設し、人生に役立つ様々なスキルを身に付けキャリアに活かせる学習機会を提供しています。また、大学と地域の連携を推進し、相互の充実・発展に努めます。

→ TEL: 03-3961-5742
E-mail: syogai@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/open_college/



公開講座風景

ヒューマンライフ支援センター

社会のニーズに学生の学びで応える

「社会のニーズに学生の学びで応える」をモットーに産学官連携事業を展開しています。本学の「知」を活かしたレシピ開発、商品開発、デザイン、食育活動を通して本学の「知」を社会に還元し、授業とは異なる実学の場を学生に提供しています。

→ TEL: 03-3961-5274
E-mail: hulip@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/index.html



東武百貨店 池袋本店 レストラン街スバイスとのメニュー開発 店舗との打合せ

森のサロン

親子でほっと一息つける場所 板橋区地域子育て支援拠点事業

0～3歳のお子さんを持つ家庭対象の子育てひろばです。「であい・ふれあい・学びあい・育てあい・思索・対話の場」をテーマに、あそび場の開放、学内外の専門家による講座やイベントの開催、森のアトリエ、子育て相談、リフレッシュ保育等を実施しています。また学生ボランティアや実習の受け入れ、卒業研究の協力等、学びの支援も行っています。

→ TEL: 03-3961-6354
E-mail: morinosalon@tokyo-kasei.ac.jp
URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/salon/index.html



学生作の大型玩具、森のサロンオリジナル玩具で自由に遊べます

主な社会連携・産学連携の歩み

- 2010** / 平成22年度
- ・板橋区地域子育て支援拠点事業「森のサロン」スタート
 - ・東京都板橋区・大学公開講座（連続6回、隔年開講、～継続中）
- 2011** / 平成23年度
- ・東京都北区と包括協定を締結
 - ・狭山市教育委員会・入間市教育委員会等との連携「子ども大学さやま・いるま」スタート（～継続中）
- 2012** / 平成24年度
- ・「白藤プロジェクト」が農林水産大臣賞を受賞
 - ・「北区環境大学事業」受託研究開始（～継続中）
 - ・東京家政大学オリジナルピンクリボン※啓発カレンダー制作（～継続中）
※アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期検診・早期治療を促す啓発運動
- 2014** / 平成26年度
- ・（株）ロフト「カロリーBENTO」レシピ考案（～2016）
- 2015** / 平成27年度
- ・東京都板橋区共催「いたばし(あい)カレッジ」（～2017）
 - ・北区共催「さんかく大学」（～2017）
 - ・群馬県共催「とらいあんぐるん大学連携講座」（～2017）
- 2016** / 平成28年度
- ・埼玉県狭山市、千葉県長南町、東京都板橋区と包括協定を締結
 - ・入間市と東京家政大学との子育て支援に関わる調査研究
- 2018** / 平成30年度
- ・埼玉県入間市と包括協定を締結
 - ・特別区長会調査研究機構・板橋区提案による自尊感情に着目した育児期女性の支援に関する基礎研究
 - ・板橋区環境協働プロジェクト「親子環境学習講座」
 - ・狭山市と東京家政大学とのスポーツと健康・食生活に関する調査研究
 - ・「東京家政大学ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」農林水産省が支援する農業女子プロジェクトの連携大学（はぐくみ校）となる（～継続中）
- 2019** / 平成31年度
- ・「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）包括協定」締結
 - ・東京都板橋区・北区共催「子育てママの未来計画」（～2021）
- 2020** / 令和2年度
- ・学生有志団体食リンピック実行委員会の取り組みが農林水産省主催「第4回食育活動表彰」にて消費・安全局長賞を受賞
 - ・森のサロンの「学生がつくるサロンプロジェクト」が厚生労働省主催「第9回健康寿命をのぼそう！アワード（母子保健分野）」にて子ども家庭局長賞 団体部門 優良賞を受賞
- 2021** / 令和3年度
- ・狭山市・入間市と東京家政大学との地域住民の運動習慣と身体機能に関する実態調査研究
 - ・地域小学校との教育連携事業が文部科学省後援公益財団法人 修養団（SYD）主催「第16回 SYDボランティア奨励賞」にて優秀賞を受賞
- 2022** / 令和4年度
- ・「生活をテーマとする研究・作品コンクール」を「生活創造コンクール」へ名称変更
 - ・東京都板橋区共催「子育てママの未来計画」
 - ・ソーレ ホテルズ アンド リゾーツ株式会社「カラダに美味しい朝食を食べよう！プロジェクト」（～2024）
- 2023** / 令和5年度
- ・双日食料株式会社、マリンフーズ株式会社と包括協定を締結
 - ・一般社団法人 先端加速器科学技術推進協議会（AAA）協賛、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（KEK）協力で「生活創造コンクール」を開催（～継続中）
 - ・東武百貨店池袋本店レストラン街スパイスとのメニュー開発（～継続中）
 - ・東洋水産株式会社との共同開発「カラダはこるぶ 豆乳と酒粕のスープ」発売
 - ・スーパーマーケットベルクにて学生アイデアレシピの味付け肉が発売
- 2024** / 令和6年度
- ・マリンフーズ株式会社との連携事業「推し海鮮丼総選挙」+「IPPIN商品開発」
 - ・一般社団法人 台湾有機農産物教育推進協会 食育活動視察
 - ・駐日コートジボワール大使が本学学長を表敬訪問

学生が参加したプロジェクト



ワークライフバランス in 農業女子プロジェクト 農林水産省が推進するパートナー校として、女性ならではの新しい発想で事業を企画します



マリンフーズ株式会社との海鮮丼レシピ開発「推し海鮮丼総選挙」 学生が企業と協働して10品のオリジナル海鮮丼を考案しました



東洋水産株式会社とのフリーズドライスープ商品開発プロジェクト 健康感のある食材やフレーバーを使用したスープが全国発売されました



東武百貨店池袋本店レストラン街スパイスとのメニュー開発 各店と開発した新メニューが「チャレンジ・ザ・グルメ」フェアにて提供されました



食リンピック(食育イベント) 家政大学発の「食育」の浸透を目的としたイベント。五感を使った「食」の競技を学生が企画・運営しています



昭和産業グループレシピ開発教育プログラム 企業による勉強会や意見交換会を経てレシピを考案。採用レシピは卵のパッケージに掲載されます



「埼玉県事業 リアル体験教室プレミアム教室 ジュニアサイエンススクール2024」 プログラミングの講座で、学生が子どもたちと一緒にゲームをつくりました



学生がつくるサロンプロジェクト 森のサロンを舞台に、学生がワークショップや環境設定を企画・実施し、親子との交流を深めました



学生がつくるサロンプロジェクト 報告書制作 Adobe InDesignを使用し、ワークショップや振り返りなどをまとめた冊子を制作しました



株式会社ドクターズプラザレヒ開発 学生が健康をテーマにした6レシピを考案し、企業Webサイト等に掲載されました



狭山市共催「体幹(腹筋・背筋)機能を知って健康増進！」 地域の方々が参加の講座で学生がサポートをしました



北区みんなで楽しむ食育フェア 出展 パクパクぞうさんとマグネットシアターなどの食育おもちゃを使った遊びを通して、来場者と交流しました

身近な生活の不思議をカタチに。 生活創造コンクール

本コンクールは全国の高校生を対象に、学校の授業や課外活動で取り組んでいる「家庭」「福祉」「環境」「文化」など生活に関する独創的な科学的探究の成果を広く募集し、今回で22回を迎えます。また2021年度より優秀な作品の要旨

を掲載した冊子「高校生の萌芽的研究」を発行し、研究を形として残すことで、さらなる継続や発展に繋がるような取り組みをしています。

◀生活創造コンクール 高校生の萌芽的研究No.4



第22回 生活創造コンクール 表彰式



学園案内で行われる表彰式には、首都圏の4校に加え、愛媛県、愛知県、岐阜県など遠方からもお越しいただきました

未来を担う子どもたちの成長を育む「地域教育支援」 子ども大学さやま・いるま

狭山市・入間市の教育委員会と本学が実行委員会を組織し、地域の大学や市町村等が連携して子どもの知的好奇心を刺激し、学ぶ力や生きる力を育む学びの機会を提供し開催しています。今年14期を迎え、本学教員、地域専門家より「はてな学・ふるさと学・生き方学」の3つのキーワードにより、大学の特色を活かした教育プログラムを開発・実施しています。



子ども大学学長(本学学長)と副学長(狭山市・入間市教育委員会教育長)を囲んでの入学式集合写真(狭山キャンパス大講義室にて)

女性の活躍推進に向けた共催事業 子育てママの未来計画

子育て中の女性たちが自分自身の生活や希望を見つめ直し、今後の人生をイメージできるよう構成された連続講座を実施しています。当研究所の所長と本学の専任教員が講師を務め、こころの元気を取り戻す方法を学ぶ『レジリエンス編』、毎日の生活を客観的に見直す『家政学入門編』、講座受講者が自分らしい未来をイメージする『ライフデザイン編』の3部構成になります。この講座は、主にグループワークを行う対面講座とホワイトボードアプリを使用したオンライン講座があります。また、自治体と共同で行っており、本学と包括協定を結ぶ東京都板橋区との、2者共催事業として年1回講座を開催しています。



視野が広がった、考え方が変わったなど、毎回大変好評をいただいているセミナー

人生100歳時代をより良く生きるために 東京家政大学市民向け特別講座

板橋区教育委員会との共催による「運動、食、睡眠、生き方」をテーマとした市民向け特別講座「人生100歳時代をより良く生きるために～自分らしく健康に生きる秘訣～」を開催しました。講師は4名の本学専任教員が務め、長い人生をより良く生きていくためのヒントを提供しました。受講料を特別に無料としたところ、多くの市民が参加し、好評のうちに幕を閉じました。



東京家政大学市民向け特別講座風景

東洋水産株式会社と共同開発 カラダほころぶ 豆乳と酒粕のスープ



試作検討会の様子



マルちゃんこと東洋水産株式会社との産学連携事業により「カラダほころぶ 豆乳と酒粕のスープ」を開発し、全国の量販店、小売店などで販売されました。栄養学を学ぶ学生11名が参加し、学生ならではの斬新かつトレンドを意識したアイデアをもとに、健康感のある食材やフレーバーを使用したスープを共同開発しました。また、造形表現学科の学生3名が店舗に掲示されるPOPを制作しました。

あかちゃんからnoたべること 卒業生による子育て応援講座

森のサロンでは、子育てや暮らしにかかわる衣・食・住をテーマにしたさまざまな講座を行っています。2023年度から、本学短大栄養科卒業の



スライドを使った講義とひとりひとりに合わせた質問タイム

佐々木尚子さんによる離乳食講座「あかちゃんからnoたべること」を開催。赤ちゃんの発達に合わせた食事の疑問や不安にお答えしています。最後は絵本



絵本に合わせた音楽を流しながら読み聞かせを行う、コンサートリーディング

にぴったりの音楽を合わせた読み聞かせもあり、楽しみながら“食”を学べる時間となっています。



東京家政大学ヒューマンライフ支援機構

Organization for Research and Community Cooperation

173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

TEL: 03-3961-5537

E-mail: orcc@tokyo-kasei.ac.jp

URL: www.tokyo-kasei.ac.jp/society/orcc/index.html